

地域の課題や魅力考える

大垣養老高 地元3社と「SDGs 未来講座」



中日本カプセル社員とサプリメントの利点や安全対策などを意見交換する生徒ら＝養老町の大垣養老高で

高校生が地元企業と一緒に地域の課題や魅力を考える「SDGs 未来講座」が3日、養老町の大垣養老高校で開かれ、総合学科の2年生3クラスの生徒が大垣市の企業3社とワークショップなどに臨んだ。11月まで全3回の講座がある。

同市が持続可能な開発目標（SDGs）をテーマに進める「環境SDGsおお

がき未来創造事業」の一環。市内の県立、私立高校7校と大垣養老高が参加し、地域の産業や活動を学ぶ。

大垣養老高では健康食品委託製造の「中日本カプセル」とシェアキッチンを運営する「Coneru」（コネル）、自動車部品製造の「J-MAX」の社員らが各クラスで授業をした。

中日本カプセルは大野耕

司総務部長ら2人が講師を務めた。生徒がサプリメントの製造の様子などを映像で学び、カプセル入りのサプリメントの利点について議論。「手軽に飲める」「苦さなどを感ぜずに飲める」などの意見を出し合った。

小林製薬（大阪市）の紅こうじサプリを巡る健康被害についても触れ、品質確保や安全のために何が必要かも意見交換した。今後は生徒が健康食品やサプリに

ついて調べ、新商品を提案する。中島一途さん（17）は「身の回りの健康食品をもっと詳しく調べてみたい」と話した。コネルは県の形をした「岐阜クッキー」を題材にワークショップを行った。J-MAXは大垣市上石津町の旧時小学校で始めるウナギ養殖とイチゴ栽培のプロジェクトを紹介。

今後は生徒にそれらを活用した新商品を考えてもらう。（今井智文）